

銀座街づくり会議が「UIA2011 東京大会ープレイベント」に参加しました！



2011年秋、“建築界のオリンピック”とも言われる、UIA2011 東京大会（第24回世界建築会議）が開催されます。およそ130の世界の各都市をリレーしてきたUIA大会が日本で開かれるのは今回が初めてです。そのプレイベントとして、リトアニアから建築家と建築を学ぶ学生たちが銀座にやってきました。

5月31日は、銀座街づくり会議の竹沢えり子より、銀座の街の構造や歴史についてレクチャーを行い、その後2時間ほど銀座の街歩きを行いました。6月1日は齋藤充さんのご挨拶に始まり、銀座街づくり会議のアドバイザーである蓑原敬さんと小林博人さんによる、「日本の都市について」、「今の銀座の街づくりについて」の講義が開かれました。その後日本とリトアニアの学生が混ざり、4つのグループに分かれてのワークショップが、6月3日の発表会・講評会の直前まで行われました。

3日は、小坂俊幸議長より挨拶、学生たちの発表会・講評会に続き、来日した建築家と学生、イベントに参加する日本人建築家と学生、銀座の人々が集まり、打ち上げパーティーが開かれました。5月31日から6月3日までのわずか4日間の滞在でしたが、今回のイベントでの交流は、両国にとって、今後に繋がる素晴らしい成果をあげることができました。



銀座街歩きの様子



蓑原さんのレクチャーに聞き入る学生たち



最終発表の後の集合写真

各グループの提案テーマと概要

◇「歴史的建物の保全的・現代的な解釈」

高層と低層の建物が混在する花椿通りを取り上げた。高層ビルの壁面、つまり低層建物の上空に、新しいヴォリュームを加え、新たな公共空間を創出することで、建物利用者の関係を改新させ、建物の保全に繋げる。



三越の屋上でランチタイム

◇「巨大に再開発されてビルのファサード / 表皮デザイン」

デパートの巨大で均質なファサードを利用し、休憩スペースの少ない銀座に新たな空間を作るという提案。街路がデパート内部のパブリックスペースにつながっていくように設計し、建物の一部に回遊性のある公共空間をつくる。それらが行き交う人々や、建物内外に視点の交差をも生み出す。

◇「狭小商業施設のすきまにおける垂直的回遊性」

「路地」に着目し、その活用と改良を提案。路地裏に橋のような通路をかけることで、各建物が階段室を設ける必要がなくなる。余分なスペースが排除されるだけでなく、ビル間に人の流れが生まれ、新たな公共空間となる。また、路地の入口にサインを設け、認知をはかり、薄暗く、湿った路地裏のイメージの転換を目指すという提案。

◇「公有地・私有地のオープンスペースの活用」

現在の銀座を「通りすぎる街」と捉え、オープンスペースと仮設式のストリートファニチャー（椅子など）を提案。オープンスペースが銀座内外の交流を生み、いつでも誰でも自由に使えるファニチャーが、銀座の街に、「通りすぎる」だけでなく「立ち止まる」という新たな側面を加えるといった提案。



最終発表会の様子

